

高大一貫教育における英文ライティング教材の改善方法)

中野美知子†
早稲田大学†

赤塚祐哉†
早稲田大学本庄高等学院†

石井雄隆‡
千葉大学‡

‡松田 健†
阪南大学†

中澤 真†
会津大学短期大学部†

要約

多くの大学では系属・附属の高等学校があっても、高大一貫教育を本格的に導入している所は少ない。大学では Critical Reading and Writing という授業を受講することになっているため、高等学校でも critical thinking の重要な基礎を学習していることが望ましい。2019 年から教材を毎年改定しているが、今年度は課題に用いた読解文で使用されている語彙が妥当なものか、50 分という高等学校の学習単位時間に適切な設問数であるか、課題の難易度が適切であるかを検討した。この第 3 次実験では、主張 (Thesis Statement) の見つけ方、主張を支持する説明の読み取り、主張を展開していくサブテーマへの気づき、想定される主張への反論や反駁への気づきを高める課題を提示し、オンラインフィードバックを与えた。

教材の改定 ①語彙の平易化:

英文を読むとき、5%の未知語があると、完全な理解が得られないと言われている (卯城、2009、門田他、2004 など)。教材に使用する語彙が適切かどうかは、高等学校までに学習してきた語彙が使われているかを吟味する必要がある。文部科学省は平成 29 年、30 年度に小学校、中学校、高等学校の学習指導要領を改定したので、新しい教科書が逐次、出版されている。新教科書に基づいた教科書コーパスの作成の計画もあるが (上田、大矢、大和田、柏木、中野、阿野 2021)、すべての作業が完了するのは 2025 年である。ここでは、教科書コーパスが開発中なので、本実践を行った第二著者が、実践前に難しいと思われる表現や慣用句、

を指摘し、第一著者がパラフレーズした。各レッスンで変更した表現は 10 語あった。500 語の英文だったので難易語が 2%含まれていたことになる。コーパスができ次第、単語レベルを特定していく予定である。

教材の改定②時間配分の適切性

問題作成者は 50 年近く大学で教えてきたので、高等学校の授業が 50 分だったり、PC 教室を利用した英語授業では 2 単位時間連続だったりという授業時間を知らなかった。今回教材を再配分することで、1 回のレッスンが 50 分で終わるように整えた。改定部分は以下の通りである。

Lesson 1 事前テスト (変更なし)

Lesson 2 序論には主張と背景が明記され、本論には主張の説明のほか反論と反駁が提示され、結論へと導く。この課では、主張、背景、反論、反駁、結論を書くというより、提示された英文中にそれぞれの文章要素を同定させた。500 語の練習問題がついていたが、これを Lesson 3 に移行した。(変更有)

Lesson 3 記述問題は改定前 6 問あったが、7 問目の意見文を書かせる設問を省き、記述問題は 5 問とした。(変更あり)

Lesson 4 反論の書き方の練習を 4 問 と適切な Evidence を選択させる問題 (変更なし)

Lesson 5 Lesson 3 の文章を再度用い、意見文のみを書かせた。(新規)

Lesson 6 2019 年度に使用した読解テスト (新規)

Lesson 7 事後テスト (変更なし)

実験結果と考察

受講中、難解な単語が多かったり、問題数が多すぎたりすると、途中でやめる学生が多い。今回は単語も平易にし、時間配分を考慮して、教材を改定したので、受講者数は増えると予測できた。そこで、改定前の 2019 年度と改定後の 2021 年度の受講参加学生数を比較してみた。2019 年度には 86 名中 39 名がすべてのレッスンを受講し、解答を提出した。2021 年度には 85 名中 64 名の学生がすべてのレッスンを受講し、解答を提出した。X 二乗検定で、96.5 (df=1,

Methods of improving English writing Tasks at coherent education bridging the university and its attached senior high school

Michiko Nakano, Waseda University
Yuya Akatsuka, Waseda University Honjo Senior High School
Yutaka Ishii, Chiba University
Ken Matsuda, Hannan University
Makoto Nakazawa, Aizu University

$p < 0.0001$)。離脱しなかった受講者数は有意差があった。単語を平易にしたことと、時間配分の改定が影響したと思われる。

記述問題の主観的な難易度の変化

各記述問題には以下の難易度判定を毎回学生たちに質問した。

設問 1 の難易度を判定してください。当てはまる番号を () 内に記入してください。

- 1 大変簡単
 - 2 簡単
 - 3 丁度よい
 - 4 やや難しい
 - 5 大変難しい
- ()

文章を平易にしたり、受講しやすい時間配分にしたりしたことの効果が難易度判定に反映されるかを調みた。以下では、変更した Lesson2 と Lesson3 のみ比較した。

表 1 主観的な難易度判定の比較

Lesson2	2019	2021
Q1	2.69	3.51
Q2	2.47	3.53
Q3	2.14	3.78
Q4	2.06	3.85
Q5	1.86	3.89
Q6	2.12	3.86
Q7	1.9	2.64
Q8	2.05	3.91
Lesson3	2019	2021
Q1	2.43	3.71
Q2	2.27	3.83
Q3	1.97	3.88
Q4	2.14	3.97
Q5	2.24	3.97
Q6	2.14	
Q7	2.05	

2019 年度に比べ、2021 年度では主観的な難易度判定がより難しいと判断されている。確かに、平易な英文と時間配分の適切化により、離脱者が減り、事前事後テストの平均点も 2019 年度では有意差がなかったが、2021 年度では有意差が出ている(中野他、2022)；事前テストと事後テ

ストを受講した生徒 65 名を対象に、その平均値の差を、対応あり t 検定で検討した。その結果、 $t(64) = -5.32$, $p < .001$, $d = 0.50$, 95%CI [-5.04, -2.29] で有意さがあり、オンライン学習コンテンツを学習して、テストの得点が有意に伸びていることが分かり、効果量も中程度であった。これは、この大会で、もう一つの発表と関連があると思われる。今回の実験では、自己評価と教員評価を導入した。自己評価では、各課題の文法的な正確さと課題充足度が点数化されている。教員と学習者が学習目標を共有し、自分の書いた解答を読み返し、評価していくということは、書くべき内容を反省し、納得していくプロセスが含まれていることになる。これは、国立教育政策研究所・教育課程研究センター(2020)が推奨している「指導と評価の一体化」ともなり、学習者が各記述文に解答する際、重要点や困難点を自覚していったことになることが示唆される。

謝辞

本研究は 梅澤克之代表 基盤 (B) 課題番号 19H01721 から研究助成を受けている。

参考文献

上田倫史他 (2021)。基盤 (B) 新学習指導要領での英語 4 技能の発達の検証に基づく指導方法と評価方法の確立 課題番号 19H01721

卯城祐司 (2009)。『英語リーディングの科学』研究社

文部科学省 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示)

文部科学省 小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説

文部科学省 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示)

文部科学省 中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説

文部科学省 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示)

文部科学省 高等学校学習指導要領 (平成 30 年告示) 解説

門田修平 野呂忠司 (2004)。『英語リーディングの認知メカニズム』くろしお出版

国立教育政策研究所・教育課程研究センター (2020) 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

中野美知子(章分担) (2013) 「英語到達指標 CEFR-J ガイドブック」 大修館書店

中野美知子(編書) (2015)。『英語教育の探求』淡水社

Ng, C., Fox, R. & Nakano, M. (Eds.) (2016). *Reforming learning and teaching in Asia Pacific universities: Influence globalized processes*. Springer.

中野美知子(編著) (2018) JACET-ICT 調査・研究特別委員会最終報告書

中野美知子(章分担) (2019) 「大学総合研センターの今」早稲田大学出版部